# 防災ツーリズムを活用した 地域防災のデザイン

問題発見型/解決型学習(FBL/PBL) \_\_\_\_

## 目次

- 1. 背景と課題
- 2. ツアーコンセプトとプログラム
- 3. ガイドファシリテーション
- 4. ワークブック
- 5. まとめ



BOSAI + Tourism

# 1.1 防災ツーリズムとは?

防災ツーリズム = 観光による体験を通して、防災について 理解を深め、その意識を高める営み

### 防災ツーリズムの事例

- 災害遺構の保存・伝承館への訪問
- 震災遺構を拠点とした語り部ツアー



災害の経験に観光価値を見出したものが多い



宮城県における東日本大震災の震災遺構の保存

## 防災ツーリズムとは?

### ダークツーリズム

負の記憶を負の遺産として観光資源化

→ 訪れる人が観光資源を「負」のものと認識することが前提

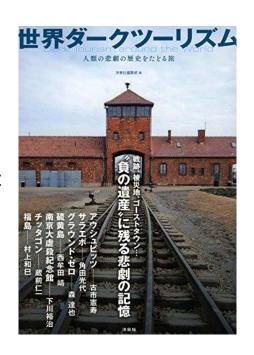
防災ツーリズムの文脈では......

- 災害の痕跡
- 被災地としての臨場感・迫力
- 追悼・祈念する場所

これら「起こったこと」が防災を考えるきっかけ

⇒自然の脅威から防災意識の向上・理解(スタディツーリズムの側面)

地域復興のための事業



### 1.2 黒潮町

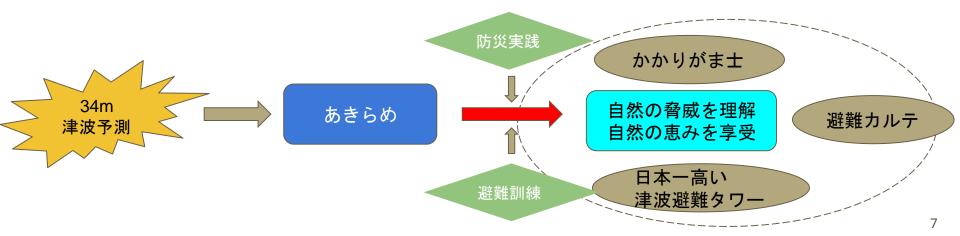
- 場所
  - 高知県
  - 。 周辺都市
    - 四万十市と四万十町
- 大阪からの所要時間
  - 車で約5時間(大阪駅→黒潮町)
- 特徴
- 恵み
- カツオなどの海産資源が豊富
- o ホエールウォッチングができる
- 脅威
- o 南海トラフ大地震が発生した際に津波高が**34m**になると予測されている(日本最大)
- 日本で一番高い津波避難タワーがある(22m)
- o 住民が主体となって様々な防災対策が行われている(避難カルテや夜間避難訓練)
- 。 災害が発生していない地域であること
- 住民の心境の変化
  - あきらめ→してみよう



### 1.2 黒潮町の特徴 その1

### • 住民の心境の変化

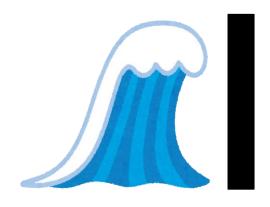
最悪の津波想定(34m)が発表された時の住民のあきらめの感情 そこから住民主体の防災対策がなされるまでに至った変化 災害が発生していない = 黒潮町に特徴的な心境変化



### 1.2 黒潮町の特徴 その2

### • 自然との距離

○ <u>自然と社会を切り離さず</u>に、災いを最小化する取組み →**34**mの津波に対抗する取組ではなく、 自然を受け入れつつ住民の災害対応力を向上させる取組を行う



ではなく



住民による話し合い

## 1.3 現状のツアープラン

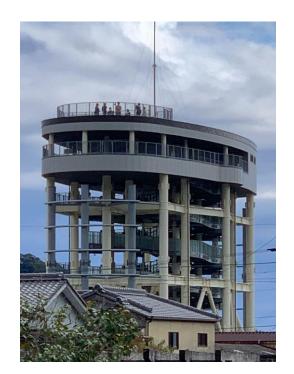
- ツアーの目的
  - 「自然の恵みと災いの二面性を学ぶ」
- 各プログラム
  - 防災学習、避難タワー見学、カツオのたたき作り体験、防災実感プログラム、シーカヤック、「逃げトレ」による津波避難訓練 等



タカラガイの標本作り



防災学習におけるフィ ールドワーク



日本で最も高い津波避難タワー

# 1.3 現状のツアープラン

## 「逃げトレ」による津波避難訓練

津波避難訓練支援アプリ

「逃げトレ」を使って実際に町を 移動しながら、避難訓練を行う。 アプリは津波の位置や自分たちの いる地点が安全かどうかをリアル タイムで表示する。

訓練終了後のレポートから自分たちが津波から逃げきることができたか、どれくらいの時間的余裕があるか等をフィードバックできる



#### 防災実感プログラム

自主防災組織である

「**かかりがま士**」の方から、住民 から見た防災活動を学ぶことがで きる。

加えて、「地区防災計画」に代表 されるような<mark>行政だけではできない取組</mark>についても学ぶことができ、 住民が主体的に行動することの重 要性を実感することができる



#### かつおのたたき作り体験

地元の漁師さんのレクチャーの もとカツオー匹を丸々捌き、 わら焼をする

カツオの捌き方だけでなく、カ ツオの構造やそれぞれの部位の 機能についても同時に学ぶこと ができる

最後に自分たちが捌いた新鮮な カツオをこの町の特産品である 天日塩をかけて食べる

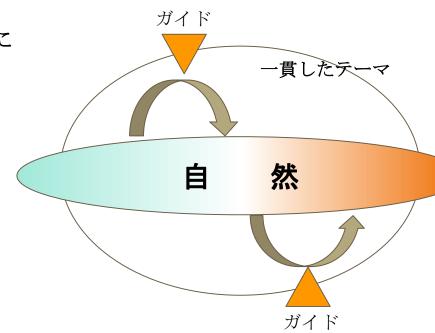


### 1.4 課題

1. 自然の恵みと脅威の二面性がツアー参加者に 伝わっているか

**1.** プログラム間の繋がりが希薄 (点と点が結ばれていない)

1. ガイド (ファシリテーター) が必要



### 2.1 ツアーコンセプト



自然が持つ恵みと災いの二面性を知り、 人と自然とのつきあい方を学ぶ

- ・防災による地域づくり、地域に根づいた防災活動、住民の心境の変化
- ・豊かな食文化・自然を活用した観光資源(ホエールウォッチング、シーカヤックなど)

### 2.2 ツアープログラム

プログラムを「防災プログラム」「自然の恵みプログラム」に分類し、ツアーでの位置付けを明確にする。

#### 防災プログラム

基礎編 導入一実践:防災学習 @砂浜美術館 座学→砂浜・展望台見学

発展編 実践一発展:タワー見学、逃げトレアプリ→防災実感プログラム(かかりがま士)地域

づくり

⇒プログラム間の重複をなくすため、基礎編、発展編に区分する。

#### 自然の恵みプログラム

ホエールウォッチング、シーカヤック、砂浜美術館

⇒黒潮町に生きる意味との関連が必要

各プログラムを繋ぐガイド(ファシリテーター)が必要。 全体のストーリーを紡ぎ、ツアーコンセプトを伝える

### **2.3** ツアー案 その 1 ex.半日 ターゲット@小中修学旅行

「自然の脅威と恵み」

11:00-11:45 砂浜美術館@ふるさと総合センター 基礎編

- ・導入 ツアー行程の説明
- ・座学(黒潮町の取り組み) 45分
- →徒歩でネスト・ウエスト・ガーデンへ移動
- 12:00-13:00 昼食(地元の食材、自然の恵み)
- →徒歩で海岸へ移動

13:15-14:00 逃げトレ (海岸→浜の宮地区津波避難タワー) 発展編

海岸で地域の自然解説**(自然の恵み)** ⇒ 逃げトレ

14:15-15:00 大方あかつき館

・振り返り、まとめ

15:00 解散

### 2.3 ツアー案 その2 ex. 一泊 ニ日 ターゲット@大学・大学院ゼミ

「自然の脅威と恵み」&「防災活動による地域づくり」

1日目

11:00-11:45 砂浜美術館@ふるさと総合センター 基礎編

- ・ツアー行程の説明(何を目的としているか)
- ・座学(黒潮町の取り組み) 45分
- →徒歩でネスト・ウエスト・ガーデンへ移動

12:00-13:00 昼食(地元の食材)

→徒歩で海岸へ移動

13:15-14:00 逃げトレ (海岸→浜の宮地区津波避難タワー)

14:15-15:00 大方あかつき館 1日目の振り返り、2日目の説明

1日目終了

### 2.3 ツアー案 その2 ex. 一泊 ニ日 ターゲット@大学・大学院ゼミ

「自然の脅威と恵み」&「防災活動による地域づくり」

2月目

9:00-12:00 自然の恵みプログラム シーカヤック OR ホエールウォッチング

移動

12:20-13:20 昼食(黒潮一番館、自然の恵み)

13:30-14:00 浜町地区散策(防災活動の工夫を発見する、看板、道路等)

14:00-16:00 浜町地区津波避難タワー見学

&かかりがま士の取り組み紹介・ディスカッション 2日間のまとめ

2日目終了

### 2.3 ツアー案

- ・黒潮町でしかできないプログラムに絞る
- ・バス移動最小限でプログラムを完結できる。

#### 課題

- ・何人まで対応できるか
- ・各プログラム実施者に加えて、ファシリテーターが必須
- ・ディスカッション、振り返りの内容およびファシリテーション

- ・ガイド (伝える)
- 一方的に情報を与えるのでなく、相手の求めている情報を提示する。
- 考える余白を与える
- コンテンツとコンテンツの行間の意味を伝える
- ファシリテーション(繋ぐ)
- 参加者とコンテンツ提供者の間に立ち繋ぐ (参加者の求めるものと、コンテンツの提供するモノをすり合わせる)
- ⇒防災、まちづくり、住民参画、自然の脅威などテーマは多義的

- 導入
- ・行程の説明、各プログラムの内容(黒潮町観光ネットワーク)
- ・ヒアリング 参加者のニーズ、知識レベルの確認 (黒潮町観光ネットワーク)
- 事前の勉強をどの程度行っているかばらつきが大きい
- ・砂浜美術館@ふるさと総合センター 基礎編
- ・既存のコンテンツを元に、防災の取り組みを説明
- ・クロスロード(考え行動するきっかけに)

### ・昼食

地元の食材を使用したメニュー

### ・逃げトレ (海岸→浜の宮地区津波避難タワー)

アプリの紹介だけでなく前段の説明からの繋がりを意識する。

海岸で砂浜美術館の説明、アート展の写真をみせるなど、

自然の恵みの観点を取り入れる

• 浜町地区散策

日常的な防災活動(看板、道路など)を発見するフィールドワークとして行う。

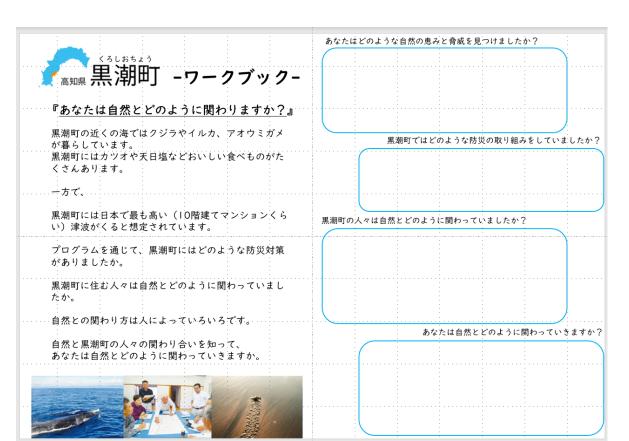
・ 浜町地区津波避難タワー見学&かかりがま士の取り組み紹介

既存の取り組みをベースにファシリテーションしながら議論を深める。

・ディスカッショ・振り返り

ワークブックの活用(考えの整理⇒発表⇒ディスカッション)

# 4. 黒潮町ワークブック



#### 表裏表紙:



- 防災学習で学ぶ自然 の脅威だけでなく、 恵みに着目してもら う
- 住民の方々がどのような思いをもって黒潮町で生活しているのか想像してもらう
- そのうえで、自然に 対して自分が何を思 うか考えてもらう

### 5. まとめ

- 防災プログラム内の重複を避けるため、基礎編と発展編に分類
- 自然のもつ恵みと脅威の二面性をツアー 参加者に知ってもらうために、 個々のプログラム間を ガイドファシリティーションで繋ぐ
- ワークブックを用いることで、ツアーを 振り返ってもらうとともに、 黒潮町の人々がなぜ自然の脅威を抱えな がらもその場所に住み続けているのかを 考えてもらう

